



神奈川県
環境科学センター

令和6年版（2024）

神奈川県環境科学センター

年

報

第56号

令和7年2月

巻頭言

年報の発行によせて

所長 加藤 陽一

試しに「今話題の環境問題」と検索サイトで検索してみると、“地球環境を脅かす「5大環境問題」”というのがありました。その項目をみると①地球温暖化②海洋汚染③水質汚染④大気汚染⑤森林破壊の5つが挙げられていました。

最初に挙げられている地球温暖化の主原因である二酸化炭素の排出量は、コロナ禍による活動自粛により、一時、大きく減少したものの、新型コロナ感染症の感染症法上の位置付けが五類感染症になり、ここ最近はコロナ禍前の生活が戻ってきました。これに伴い生活様式や経済活動も以前の状況に近づいてきたことにより、温室効果ガス排出量削減の目標達成は予断を許さない状況になってきています。

加えて日本でもAI利用が一般的となり、その利用拡大に伴うデータセンターの新設が見込まれること等から、将来の電力需要量が増加する見通しとなり、カーボンニュートラルに向けた取り組みはますます重要になってきています。

更には、地球温暖化による気候変動影響は、気温上昇による熱中症被害の増加や、勢力を増した台風の進路が過去と異なり、被害影響の予測が困難になる等、私たちの生活様式にも大きな影響を与えはじめています。

続く海洋汚染は、その1つである海洋プラスチック問題について、相模湾沿岸のマイクロプラスチック調査を行いました。その結果から、河川を通じて内陸部からの影響を多く受けていることが明らかとなりましたが、このことは、私たちに、プラスチックごみを減らす生活様式を求めているように感じます。

また、水質汚染では、閉鎖性水域である東京湾における発生源別負荷量を見ると、生活排水の負荷割合が大きいことが、大気汚染では、フロンガス等使用当時は有害だと思われていなか

ったものが、便利な生活を続けるうちに自然の許容量を超えて環境に排出された結果、オゾン層破壊や地球温暖化など思わぬ形で地球環境に影響が表れてきました。

森林破壊についても、海外では人口増加による食糧確保のために森林を切り開き農地とすることによるものや、地球温暖化に伴う気象変化に伴う異常少雨や干ばつにより起こった森林火災による焼失があります。日本国内でも、国産材の使用減少や使用燃料の変化により山林や里山の荒廃したところに気候変動による大雨発生頻度の増加が重なり、手入れが行き届かない山林からの土砂流出による災害が起こっています。

これらの環境問題を見ていると、我々のライフスタイルを見直すことを含め、政府、企業、市民社会が協力関係を築きながら、環境保全のための総合的な取り組みを進めていくことが重要であると感じます。そのためには環境教育や啓発活動を通じて、社会の意識を高めるための情報発信も重要です。本書がその一助になれば望外の喜びです。

最後になりますが、本書をご覧になってくださった皆様に心より感謝申し上げます。

皆様の温かいご支援とご協力が、私たちの取り組みを推し進めていく原動力となっております。

引き続き、ご支援を賜りますようお願いいたします。

目 次

1	沿 革	1
2	運営概要	2
2. 1	所在地	2
2. 2	敷地及び建物	2
2. 3	環境学習施設	2
2. 4	環境常時監視施設	2
2. 5	主要検査・研究機器	2
2. 6	組織及び業務内容	3
2. 7	職員配置数	3
2. 8	予算執行状況	4
2. 8. 1	令和5年度歳入歳出決算額	4
2. 8. 2	年度別歳出決算額	4
2. 9	環境安全管理協議会	5
3	事業概要	6
3. 1	環境情報部環境活動推進課	6
3. 1. 1	企画調整業務	6
3. 1. 2	環境学習業務	18
3. 1. 3	神奈川県気候変動適応センター	21
3. 2	環境情報部環境監視情報課	23
3. 2. 1	環境監視業務	23
3. 2. 2	環境情報の管理・提供業務	27
3. 2. 3	行政関連の調査等の業務	28
3. 2. 4	その他業務	29
3. 3	調査研究部	31
3. 3. 1	調査研究業務	31
3. 3. 2	環境監視業務	39
3. 3. 3	行政関連の調査等の業務	40